

# 校内スケッチ

～梅一輪～

2月13日、木曜日。下の写真は体育館前の梅の木の様子です。

**梅一輪 梅一輪ほどの 暖かさ**

この俳句は、松尾芭蕉の弟子である服部嵐雪が読んだ句です。

この句の解釈には次の二通りがあるそうです。

- ・梅が一輪咲いている。それを見ると一輪ほどのかすかな温かさが感じられる。
  - ・梅の花が一輪咲くごとに、少しずつ暖かくなっている。
- どちらにしても、ゆっくりと着実に春が近づいているのですね。



忍び寄る

春の足音

うれしいな

